

課題名	46 玉露の生葉評価基準の設定		分類	①
	古葉及び木茎の混入割合と品質			
試験研究年次	63~1年 (完了)			
I 目的 玉露生葉評価基準を設定するため、玉露生葉への古葉及び木茎の混入が製茶品質に与える影響を明らかにする。				
II 試験方法 所内のやぶきたの自然仕立玉露園で生産された生葉に、一定の割合で古葉あるいは木茎を混入した後、1kg製茶機で製茶し、品質を調査した。				
1 試験区の構成				
古葉の混入と製茶品質		木茎の混入と製茶品質		
混入率(%)	備考	混入率(%)	備考	
0	古葉を重量比で混入した。	0	木茎(しごき摘みで新芽の茎が途中で切れずに基部よりもげたもの)を重量比で混入した。	
0.1		1		
0.2		2		
0.3		3		
0.4		4		
0.5		5		
2 荒茶価格の評価 購販連茶流通センターで評価した。				
III 主要成果の概要				
玉露生葉への古葉及び木茎の混入は製茶品質・荒茶価格に大きく影響するため 生葉評価基準設定の際の重要な要因の一つとなることが明らかとなった。				
1 古葉の混入と製茶品質				
(1) 所内で普通に摘採された玉露生葉には1kg当たり0.17%(1.73g, 約2.7枚)の古葉が混入していた。				
(2) 古葉の混入による製茶品質への影響は、外観では混入率0.1%まではほとんど影響はないが、0.5%になるとかなり低下する。内質には混入率0.5%程度まではそれほど影響はない。				
(3) 古葉の混入による荒茶価格の低下は大きく、混入していないものより0.5%混入では10~15%安くなるので、摘採の時に古葉が混入しないように細心の注意を払う。				
2 木茎の混入と製茶品質				
(1) 所内で普通に摘採された玉露生葉には1kg当たり2%(20.5g, 20.1本)の木茎が混入していた。				
(2) 木茎の混入による製茶品質への影響は、摘採の早晚(茶芽の硬化度合)によって異なる。早期摘採では木茎があまり目立たないが、摘採が遅れると木茎が硬化するため目立つようになる。外観では混入率1%では大きな影響はないが、4%以上になるとかなり低下する。内質では混入率5%程度までそれほど影響はない。				
(3) 木茎の混入による荒茶価格の低下は2%まではそれほど大きくないが、3%以上になると低下が大きくなる。木茎は除去後、白折茶の原料として利用されるため、古葉の混入ほど低下しない。				

IV 主要成果の具体的データ

第1表 古葉の混入割合と製茶品質及び荒茶評価額 (63年)

混入率 %	外観	内質	合計	備考	荒茶価格 円/kg
0	40	60.0	100.0		7000
0.1	40	59.5	99.5		7000
0.2	40	59.5	99.5		6800
0.3	39	59.5	98.5	黄葉や中目立つ	6500
0.4	38	59.5	97.5	"	6200
0.5	37	59.0	96.0	黄葉目立つ	6000

第2表 古葉の混入割合と荒茶評価額 (1年)

混入率 %	摘採月日			備考
	5.8	5.10	5.12	
0	7000円	6900	6800	
0.1	6900	6800	6700	おがね目立つ
0.2	6700	6600	6400	中目立つ
0.3	6400	6300	6300	"
0.4	6300	6300	6200	黄葉かなり目立つ
0.5	6200	6300	6000	

第3表 木茎の混入割合と製茶品質及び荒茶評価額 (63年)

混入率 %	外観	内質	合計	備考	荒茶価格 円/kg
0	40	60.0	100.0		7000
1	39	59.5	98.5		7000
2	38	60.0	98.0	木茎や中目立つ	6900
3	38	59.0	97.0	"	6600
4	37	58.5	95.5	木茎目立つ	6500
5	37	58.5	95.5	"	6500

第4表 木茎の混入割合と荒茶評価額 (1年)

混入率 %	摘採月日			備考
	5.8	5.10	5.12	
0	7000円	6900	6800	
1	6900	6800	6600	イ 極くわずかに目立つ
2	6900	6800	6600	ロ やや目立つ
3	6800	6700	6400	イ 木茎目立つ
4	6700	6550	6300	
5	6700	6550	6200	ロ かなり目立つ

注) 備考のイは5月8日及び5月10日摘採のもので、ロは5月12日摘採のものである。

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 手摘み玉露生葉の品質向上技術として活用できる。
- 2 手摘みと機械摘み玉露では生葉の性質が異なるので、機械摘み玉露には適用できない。

VI 今後の研究上の問題点

品種によって茎もげの難易がみられ、また茎の硬化度も異なるため、やぶきた以外の品種での検討が必要である。

VII 資料名

昭和63～平成元年度 福岡県農業総合試験場茶業指導所 試験成績書